京都のINGをCHECK IT OUT!!

口コミ情報カタログ

今月のオレが甘かった

ライス追加でコレステロール値☆☆☆

載せただけで「特」が付く日中友好!?の珍メニュー

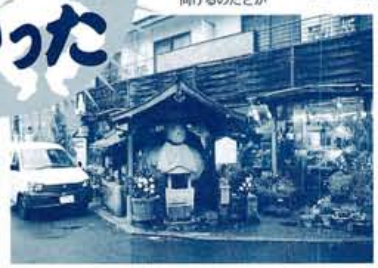
弊誌キワもんグルメ特捜部に舞い込んだ垂れ込み情報。ホシは某食堂に君臨する「特中」の愛称で親しまれる一品で、付近の中年サラリーマンを骨抜きにしているらしい。早速の現場検証にて「特中」と接触！　と思いきや、オイオイ！天そばなんか頼んでないよ！って叫ぶ寸前にえび天の周りにチャーシュー、もやし、コーンの存在を認知。もしやと思い味わってみたら、あぁ紛れもなく中華そば！　「特製」付けたい気持ちも分かるけど、「天中」じゃあかんのん？

東川通東洞院を少し東へ行けば「特中」のふるさと「T砂」がある。うどんとそばがメインの食堂。あまり夜遅くまでは営業していない模様

「特中」こと「特製中華そば」730円。食堂の中華そばならではのほんのり甘いスープにストレート麺。その上にドッカリとえび天が横たわる

今出川通に座す地蔵、もとい観音様

もはや立っているのか座っているのかも不明。背中に何か背負っているようだが、風化のために判別不可能



車と比較して、その大きさを推し量ってもらいたい。前の道は志賀越道と呼ばれる京の古道。白川女は今も商いの前に花を手向けるのだとか

強面なのに子煩悩！白川エリアのお目付け役

北白川～百万遍間を練り歩いていたら、突如行く手を阻む巨体が出現。石作りの体は優に2m以上、真一文字に結んだ口と細目が特徴の彼は、路傍で微動だにしない。地蔵にしては態度がデカ過ぎるし、大仏と呼ぶには中途半端。すると傍らの立て札には「子安観世音」とあり、この石仏が鎮座する場所は古都の「白川村」の入口に当たり、鎌倉時代から界隈の子供を見守ってきたというのだ。並み居る開発にもめげない子供の味方だったのね。こりゃ失礼、と合唱！

林的映画三昧

イラストと文　ハヤシチサコ

R・ロドリゲスは、$7000で『エル・マリアッチ』を80万円弱で撮った。スタッフ・キャストとも友人・知人を使い本人は人体実験のバイトで製作費をためたという伝説。しかし、ごうだろう、素人映画なんて言われないやもしれないでしょうか。ムフフ…と笑ってしまうシーンもしばしば。それは暗闇らしさゆえである。ストーリーは皆の涙出ぬ様、取るに足らぬ。

ハヤシチサコ・無類の映画好きのイラストレーターにしてグラフィックデザイナー。「Club Fame」時代には、彼女のデザインが表紙を飾ったこともアリ。編集部の熱望により本誌への登場と相成った。

江ノ島散策を擬似体験できる蚕ノ社駅～太秦駅区間編

三条太秦繁栄会
副会長 今村穆義さん

ね。三条太秦繁栄会・副会長の今村さんは、半世紀に渡り、洋品雑貨「まからんや」の店主として店頭に立つ。地元の幼・小・中・高の制服等を扱う仕事上、地元民の成長も、街の歴史も見てきた商店街の長老!? さ。無人駅の蚕ノ社駅では切符を買うにも窓口や券売機は無い。だが駅ホームでこんな看板を発見。コーヒーチケットではなく嵐電の回数券を売る喫茶店!? 実は当駅の隠れ窓口かも　は。蚕ノ社近くの喫茶店「Tiny Bubbles」。店名・ポスター・BGMは全て江ノ島ばり。聞けば、やはりマスターはサザンアディクト。老若男女が憩いの場として集うこの店は、まさに江ノ島情緒の発信源!?　に。どことなく江ノ島の雰囲気を漂わす駄菓子屋「富士屋」。それは、日蓮まりの中、おばちゃんが放つ香ばしい匂いから、海の家を連想するから!? 中にはここのたこ焼の虜になり嵐電を足に、通いつめる常連さんもいるのだとか

ひばし続いた路面走行も蚕ノ社駅から再び地ホを横かむびょうに線路へと戻り、三条通を迂回するように走る今エリア。区間の始まりとともに三条通沿いに立ち並ぶのは、40年以上の歴史をもつ「三条太秦繁栄会」。ココはふと歩けば湘南エリアの一つ「江ノ島」とダブる町。日溜まりが差す喫茶店に足を踏み入れると、早速耳に届くサザンのBGM。通りに出れば、ソースが焼ける匂いに子供が群がり、海の家と重なる下町情緒。海もサーフィンもヨットもないにせよ、そんなシーンの連続が京都に居ながら連想できる。それに加えて店舗もローカルサイズ、小さな洋服店・帽屋・花屋も然り。しかしその連想の主軸は、何を隠そう町と地元民を繋ぎ、観光客を運ぶ嵐電。海水浴客も使う江ノ電同様、足としてだけじゃない、生活に電車自体が密に関わっているからだろう。

下町＋サザン＋嵐電ミックスで醸し出したる江ノ島風情！